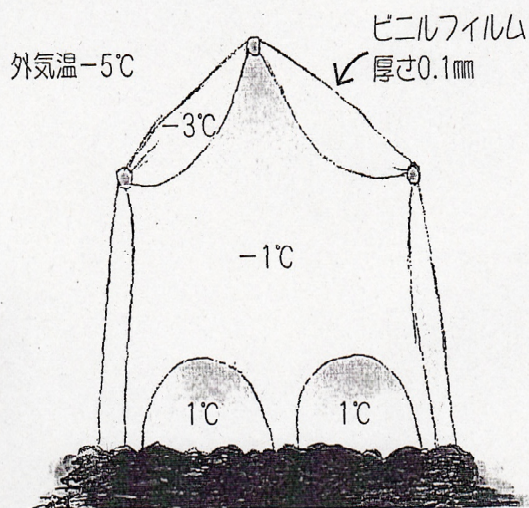


パイプハウスを使った葉物づくり



標高が高くない
所では、加温が出
来ないハウスでも
サラダナ、ホウレ
ンソウやコマツナ、
シュンギクなどは
栽培が可能です。

緑の野菜が少ない時期なので、春先まで上
手にハウスを使いましょう。

保温効果はビニル1枚で2℃、中にカーテンや小トンネルなどを行えば更に2℃程度
温度を高めに保てます。また、マルチの併用で更に効果的。厳冬期には夜間、トンネル
の上にコモや保温資材を掛ければもっと効果が上がります。

ただ、天気の良い日には、気温が上がりすぎることもあるので注意が必要です。

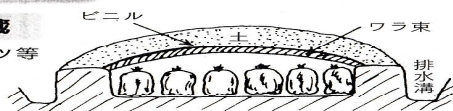


冬野菜の保存方法

寒冷地

トレンチ貯蔵

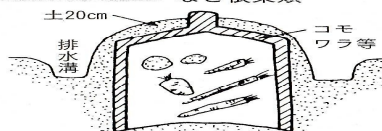
ハクサイ・キャベツ等



- ①排水のよいところへ深さ30cmの溝を掘る。
- ②ハクサイ等を、根を上にして並べる。
- ③ワラ束を並べ、上をビニルで覆う。
- ④土を15～20cmのせる。
- ⑤排水溝を掘る。

縦穴貯蔵

パレイショ・ダイコン
など根菜類



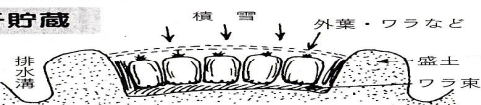
- ①深さ1m程度の縦穴をほる。
- ②側壁へワラ束等を並べ野菜を入れる。
- ③上部もワラ束を並べ、土をのせる。

※ワラが足りない時は断熱シートを補助的に使ってもよい。

積雪地

トレンチ貯蔵

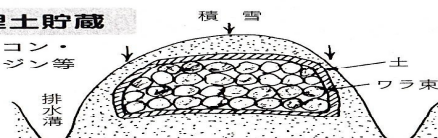
ハクサイ・
キャベツ等



- ①排水のよいところに溝をほる。
- ②ワラ束等をしきつめる。
- ③野菜は根を上にして並べる。
- ④外葉やワラ等で覆う。
- ⑤排水溝を掘り積雪を待つ。

埋土貯蔵

ダイコン・
ニンジン等



- ①地表面にワラ束をしき、野菜を並べる。
- ②側面、上面もワラ束でおおう。
- ③土をかけて全体をおおう。
- ④排水溝を掘る。
 - ・トレンチ貯蔵より保温性が高い。
 - ・積雪の下面温度は0℃以下に下らない。



農業豆知識

○伊藤組合長の自作アイデアグッズの紹介♪

皆さんはプラグトレに種をまくとき、どのような方法で行っていますか？土を入れ、種を落とすための穴をあけ、指でつまんで穴に落としていく…そんな方も多いと思います。プラグトレの規格は200穴や288穴など様々ですが、それを何十箱も行っていると気が遠くなってきます。専用の播種機も売っていますが、値段が高かったり、用途が限定されてたりして中々手が出せない方もいるかもしれません。

そんな中、なんと伊藤良夫組合長は自分でアルミ板を使って播種板を作っていました！今回は伊藤会長の自作播種板についてご紹介したいと思います！



左の写真が会長自作の播種板です。

上の板と下の器の2枚に分かれており、上の板は左右にスライドできるようになっています。上の板には小さな穴が100個開いており、これは種がちょうど一粒入るぐらいに調節してあります。下の器にも大き目の穴が同じ数だけ開けてあります。

使い方は非常に簡単です。

- ① 種を板の上に入れ、揺らしたりして穴に種を落とす。
- ② 上の板をスライドさせると下の器に開けた穴から種が落ちる。

たったこれだけです。なお、この播種板は200穴用のプラグトレに合わせて作っており、この流れをもう1回やるだけで1枚の播種作業が終了します！

左の図は播種板を分かりやすく図解したものです。こんな風に単純な構造ではありますが、これによって播種作業にかかる時間がかなり短縮できたそうです。

伊藤会長は今回これを作るにあたって、穴をうまい具合に開けることに一番苦労したそうです。まず、プラグトレに合わせて穴を開けなくてはならないため、穴の列が曲がってしまうと作り直しです。また穴が大きすぎてしまうと種が2粒以上落ちてしまいます。さらに、穴の深さも問題で、深すぎると種が多く入ってしまい、浅すぎると揺らしている段階で穴から種が飛び出てしまいます。

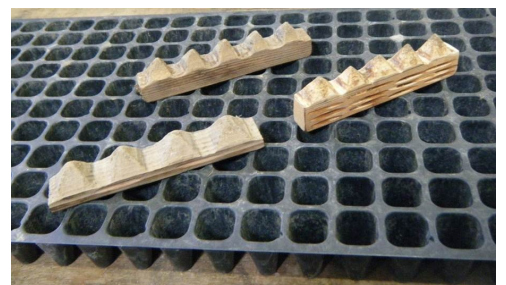
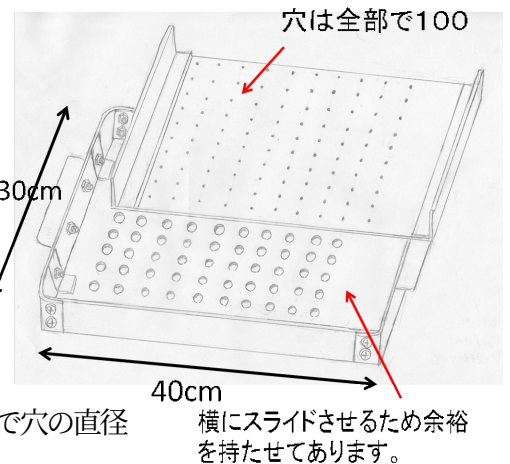
様々な試行錯誤の上、ホウレンソウの種子であれば厚み2mmのアルミ板で穴の直径は4.2mmが丁度良いと分かったそうです。

また、上の板を取り換えれば他の野菜の播種にも使えます。ブロッコリーや小松菜、チンゲンサイ、ナタネなどその用途は様々です。

ちなみにこれを作るのにかった費用は全部で7～8000円だそうです。

なお、この播種板は現在[あさつゆにも1台置いてあります。](#)ぜひ自由に使ってみてくださいとのことです。

最後になりますが、右の写真に写っている道具も伊藤会長が作ったものです。これは土に穴を開ける道具で、種をまく前にこれを用いることで、効率的に土に穴を開けることができます。凹凸がピラミッド状になっているので、うまく種が下の方に落ちて大変具合が良いそうです。作りは簡単ですが、アイデア次第で作業は非常に楽になります。皆さんもお一つ作ってみてはいかがでしょうか？



今月号の電子版にのっている画像

蓮根の収穫の様子

電子版はあさつゆレジにて

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター

近藤・阿部 (E-mail:joshu-aec@pref.nagano.lg.jp)